

2022年12月期 第1四半期

決算説明資料

2022年 5月



免責事項および注意事項

- ◆ 本資料に記載された将来情報などは資料作成時点での当社の認識、意見、判断又は予測であり、その実現を保証するものではありません。様々な要因により実際の業績や結果とは大きく異なる可能性があることをご承知おき下さい。
- ◆ 説明会および本資料は、当社をご理解いただくための情報提供を目的としたものであり、当社又は子会社が発行する有価証券への投資を勧誘するものではありません。
- ◆ セグメント収益は、セグメント間の内部営業収益又は振替高を含んだ営業収益を表示しております。
- ◆ 業績予想以外の円換算の為替レートは、以下の2022年3月末レートで換算しております。
1 シンガポールドル：90.49円 1インドネシアルピア：0.0086円 1モンゴルトゥグルグ：0.0413円
1韓国ウォン：0.1013円 1USDドル：122.39円
- ◆ Nexus Bank株式会社（以下、「NB」といいます。）との株式交換は、2022年4月1日に完了しました。2022年12月期の業績予想にはNBの業績を含んでいますが、発生が見込まれる負ののれん発生益については、算定中のため織り込んでおりません。
- ◆ エイチ・エス証券株式会社の株式取得は2022年3月31日に完了し、第1四半期にBS連結をしました。また、第2四半期にPL連結の予定ですが、金融商品取引業の業績は経済情勢及び市場環境の変動を大きく受けるため、業績を適正に予想し、開示することは極めて困難であることから、2022年12月期業績予想にエイチ・エス証券株式会社の業績は織り込んでおりません。

※なお、当決算説明資料では、社名を以下のとおり略称で記載しています。

Jトラスト銀行インドネシア（BJI）/ Jトラストオリンピンドマルチファイナンス（JTO）/ Jトラストインベストメンツインドネシア（JTII）
ターンアラウンドアセットインドネシア（TAID）/ Jトラストロイヤル銀行（JTRB）

**第1四半期の業績が期初予想を上回って推移していること
などから、2022年通期業績予想を上方修正**

**BJIが黒字転換するなど、特に東南アジア金融事業の
改善が計画以上のスピードで進んだ**

2022年12月期連結業績予想の修正

- 計画を上回った1Q業績などを受けて2022年通期業績予想を上方修正
- 営業利益7億円の上方修正のうち、金融事業については東南アジア金融事業を5億円増額したのみ
- NB株式の評価益計上などから、親会社の所有者に帰属する当期利益を上方修正
- NBとの株式交換により見込まれる負ののれん発生益は、正確な金額を算定中のため修正予想には未反映

	FY12/2022 1Q実績	期初のFY12/2022 通期予想	修正後FY12/2022 通期予想 (※)
営業収益	123億円	713億円	713億円
営業利益	19億円	48億円	55億円
税引前利益	39億円	46億円	70億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	36億円	14億円	46億円

(※) 為替の影響は、今回の上方修正に織り込んでいません。

- 1. 2022年12月期 第1四半期
連結決算概要**
2. 2022年12月期 第1四半期
セグメント別業績と取り組み
3. 2022年12月期 第1四半期
修正後通期予想に対する進捗率と株主還元

連結決算概要（前年同期比）

- 営業収益は25億円の増収
- 営業利益はシンガポールでの勝訴判決での一部履行金を受領した前年同期比では減益となったが、主力の金融事業は増益

	FY12/2021 1Q	FY12/2022 1Q	差額 (※)
営業収益	98億円	123億円	25億円
営業利益	42億円	19億円	-23億円
税引前利益	60億円	39億円	-21億円
親会社の所有者に 帰属する当期利益	28億円	36億円	8億円

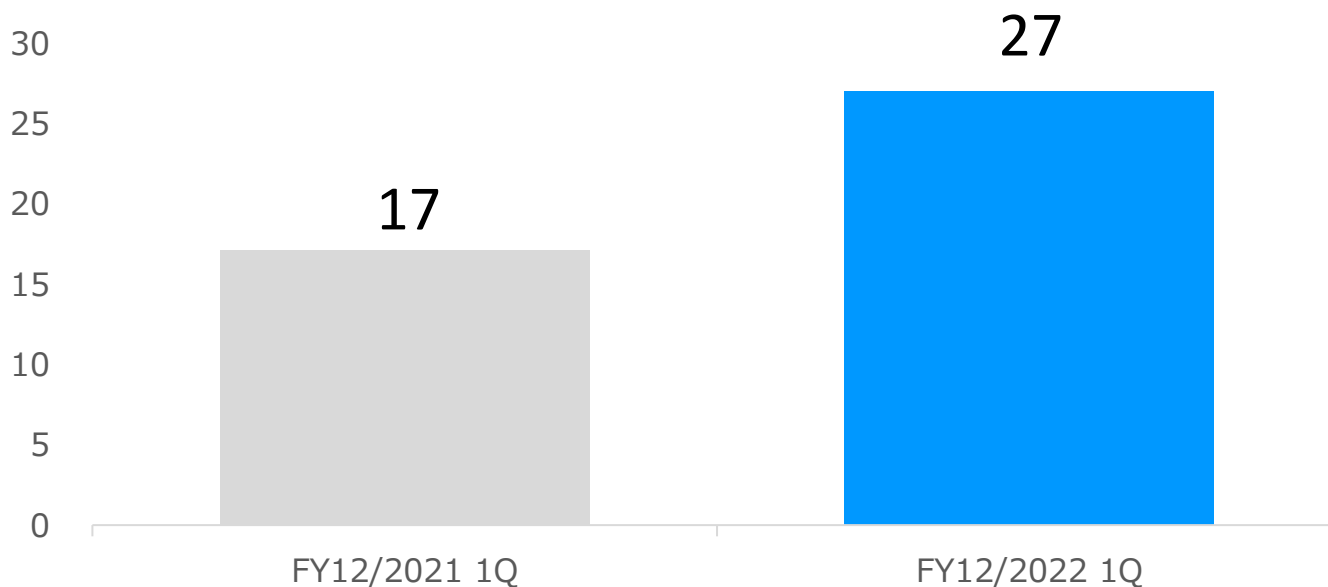
(※) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しております。

金融3事業のセグメント営業利益（前年同期比）

- 金融3事業のセグメント営業利益は、前年同期の17億円から27億円に大幅増益

金融3事業のセグメント営業利益合計（※）

単位：億円



（※） FY12/2022 1Qはエイチ・エス証券の子会社化に伴う負ののれん約1億円を除く

セグメント別営業収益（前年同期比）

➤ 東南アジア金融事業が前年同期比で19億円の増収

	FY12/2021 1Q	FY12/2022 1Q	差額 (※1)
日本金融事業	21億円	21億円	0億円
韓国及び モンゴル金融事業	36億円	42億円	6億円
東南アジア金融事業	38億円	57億円	19億円
投資事業	1億円	0億円	-1億円
その他	1億円	2億円	1億円
連結営業収益 (※2)	98億円	123億円	25億円

(※1) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しております。

(※2) 連結営業収益は連結調整後の数値となります。

セグメント別営業損益（前年同期比）

➤ 東南アジア金融事業が黒字転換し、前年同期比10億円の増益

	FY12/2021 1Q	FY12/2022 1Q	差額 (※1)
日本金融事業	11億円	11億円	0億円
韓国及び モンゴル金融事業	10億円	11億円	1億円
東南アジア金融事業	-5億円	5億円	10億円
投資事業	30億円	-4億円	-34億円
その他	-1億円	0億円	1億円
連結営業利益 (※2)	42億円	19億円	-23億円

(※1) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しております。

(※2) 連結営業利益は連結調整後の数値となります。

1. 2022年12月期 第1四半期

連結決算概要

2. 2022年12月期 第1四半期

セグメント別業績と取り組み

3. 2022年12月期 第1四半期

修正後通期予想に対する進捗率と株主還元

東南アジア金融事業

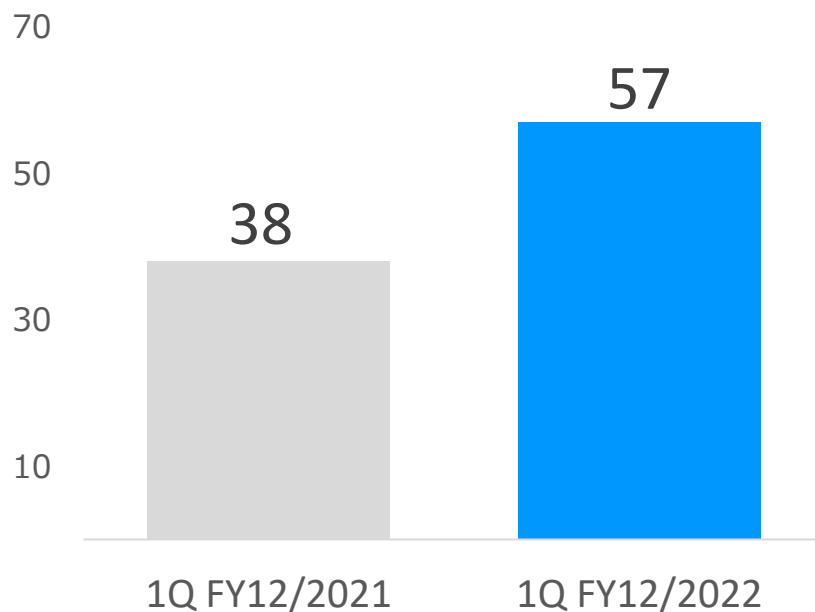
2. 2022年12月期 第1四半期 セグメント別業績と取り組み

東南アジア金融事業の営業収益と営業損益

- 営業収益は銀行業における貸出金の増加に伴って利息収益が増加し増収
- 営業損益はBJIの黒字転換もあり前年同期比10億円の増益、東南アジア全体でも黒字転換

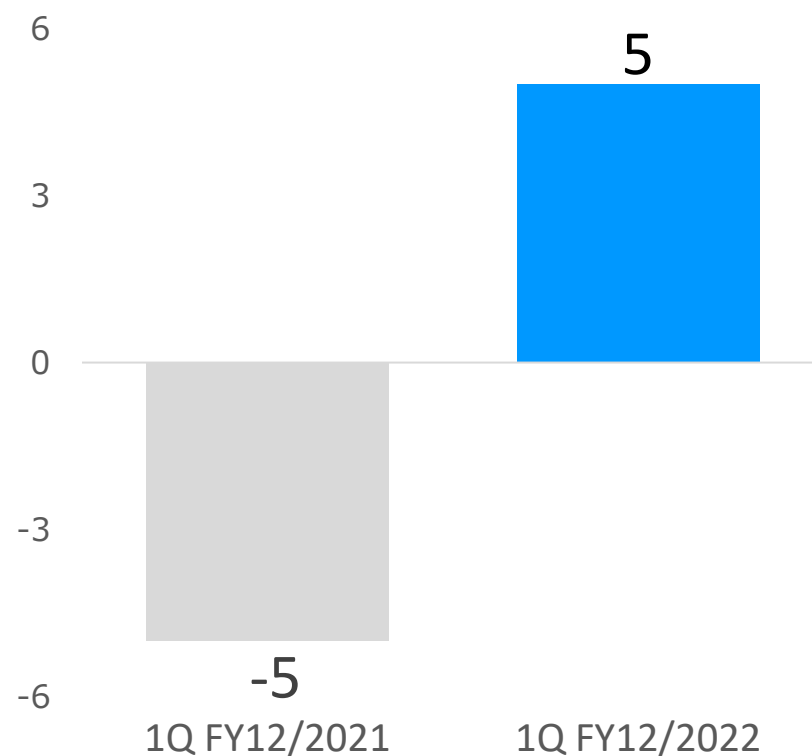
営業収益

単位：億円



営業損益

単位：億円



東南アジア金融事業（インドネシア）

2. 2022年12月期 第1四半期 セグメント別業績と取り組み

BJIの黒字転換

- 営業収益・損益は増収増益
- 黒字転換の主因は、貸出残高が計画を上回ったことによる営業収益の上ぶれと不良債権の圧縮、預金金利の引き下げ

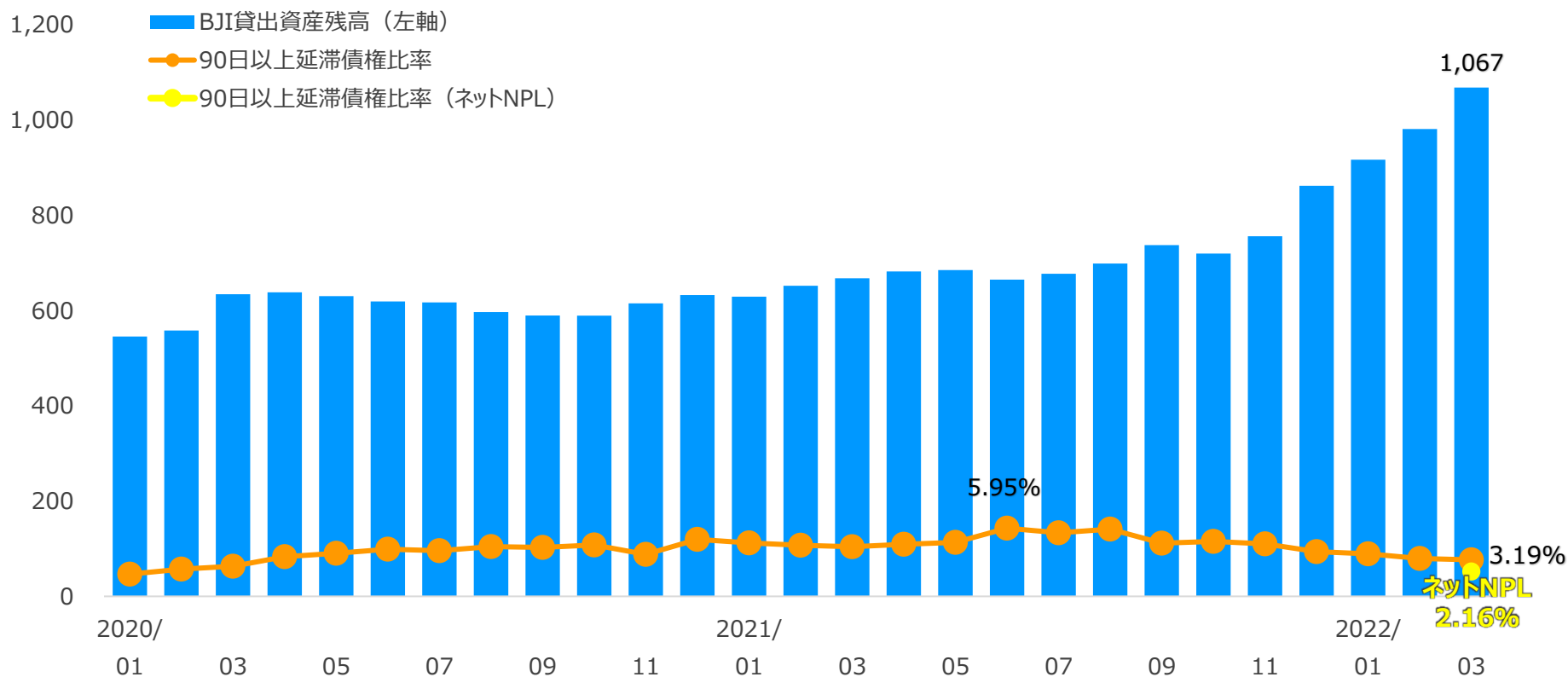
	FY12/2021 1Q実績	FY12/2022 1Q実績	差額 (※)
営業収益	18億円	29億円	11億円
営業損益	-3億円	2億円	5億円

(※) 億円未満を切り捨て表示した数値の差額を億円単位で計算しております。

BJI 貸出残高とNPL比率

- 2022年3月末の貸出残高は2021年12月末比で24%の増加
- コロナ第2波のロックダウン解除により、債権回収による不良債権金額の圧縮に加え、全体貸出残高の増加もありNPL比率は足元で低下

単位：億円



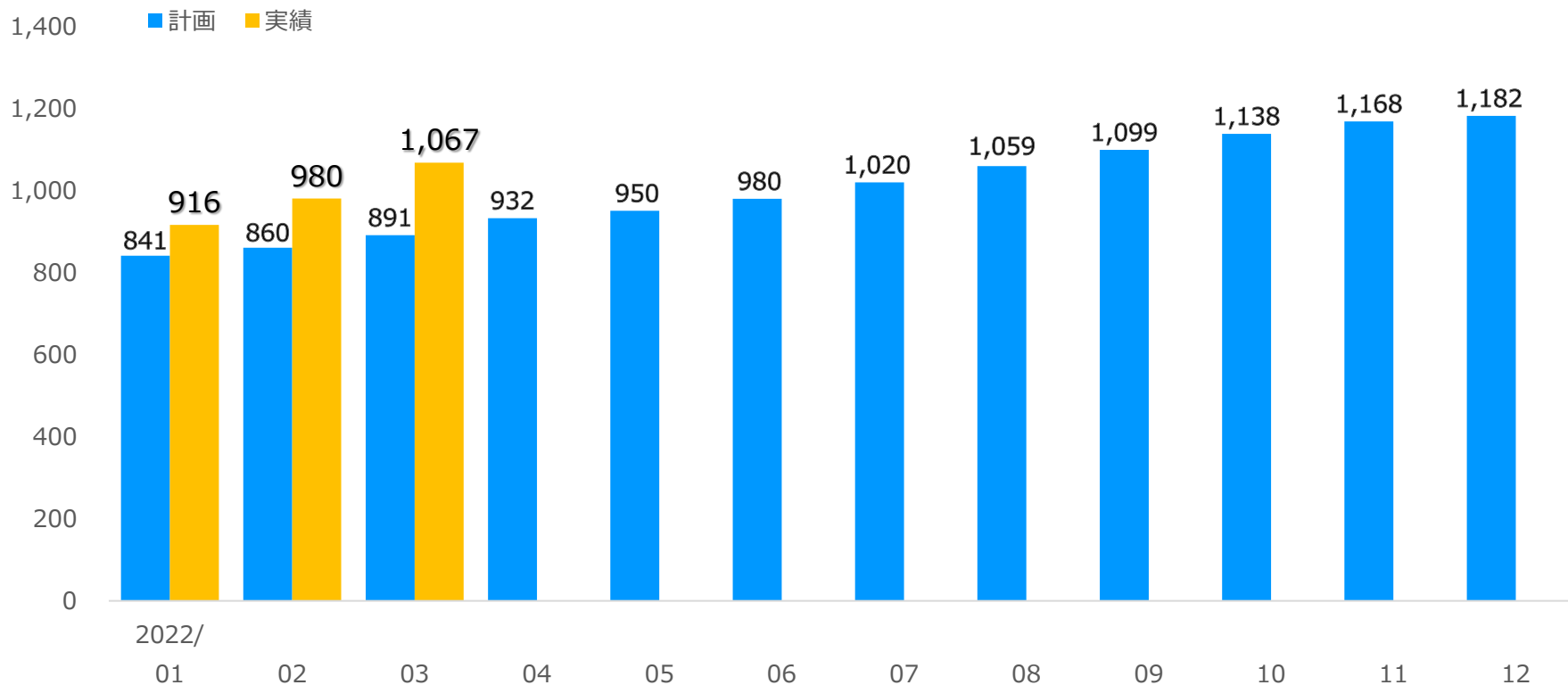
※数値は現地通貨に3月末レートを乗じて表示

BJI 貸出残高の計画対実績

- 貸出残高は計画を上回るペースで積み上げ
- リテール向け住宅ローンの貸出強化を目的に、現地デベロッパーとの提携を推進

貸出残高の計画対実績

単位：億円

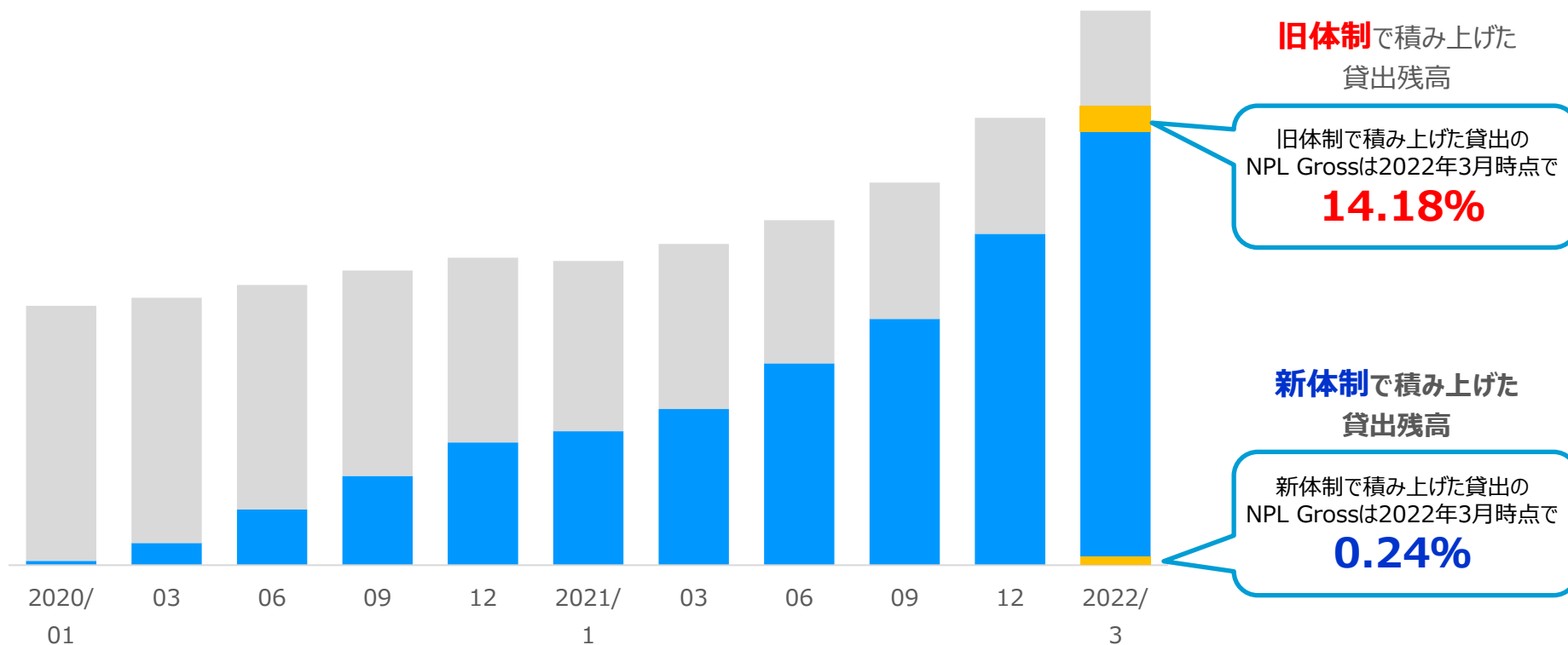


(※) 数値は現地通貨に2022年3月末レートを乗じて表示

2020年1月以降の新体制で積み上げた貸出残高とNPL比率

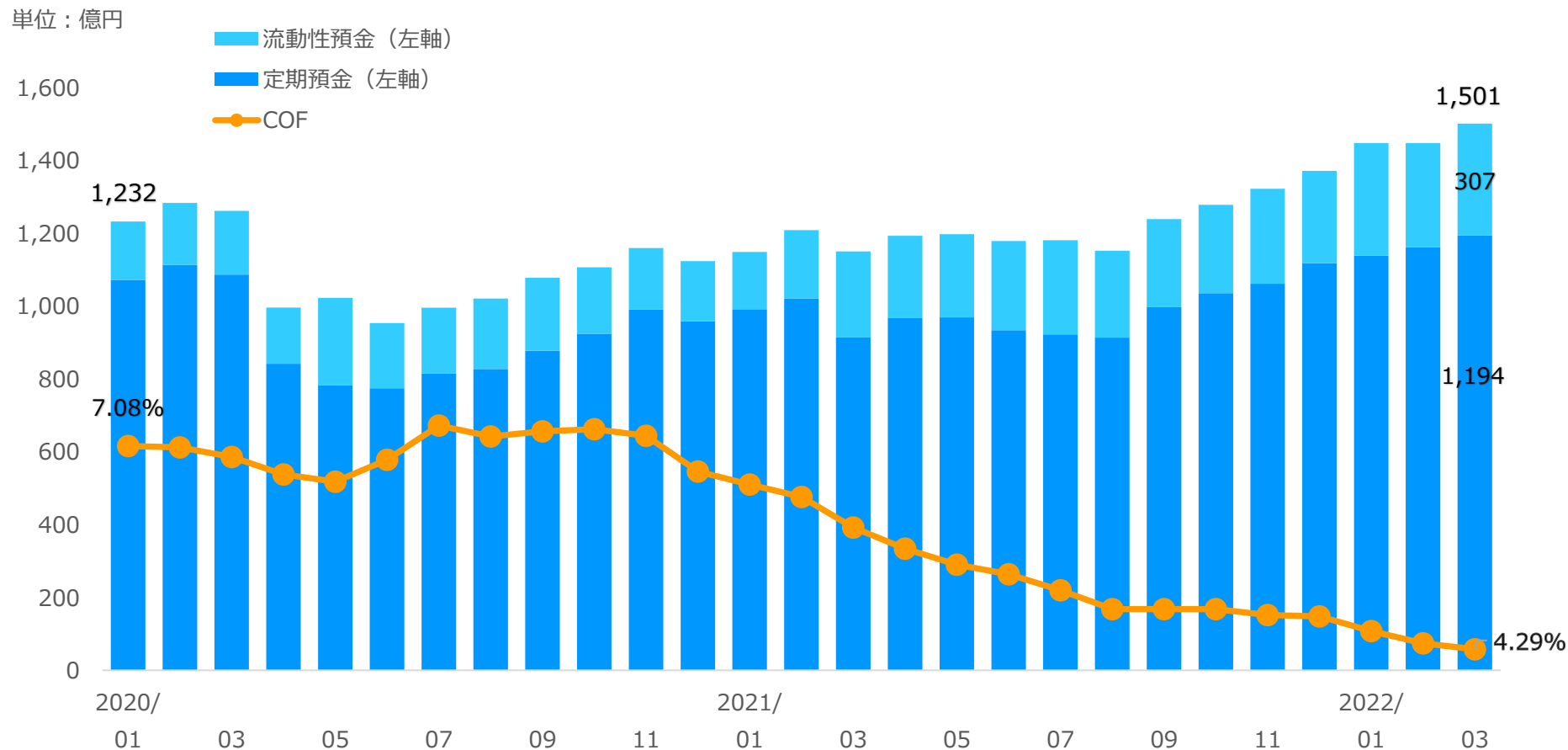
- 2020年1月以降の新体制においてリスクマネジメントを強化
- 新体制による貸出残高は全体の78.82%(約841億円:約9.8兆ルピア)まで拡大
- 新体制で積み上げた貸出のNPL比率(Gross)は2022年3月時点で0.24%

3月末貸出残高：12.4兆ルピア=1,067億円



BJI 預金残高とCost of Fundsの推移

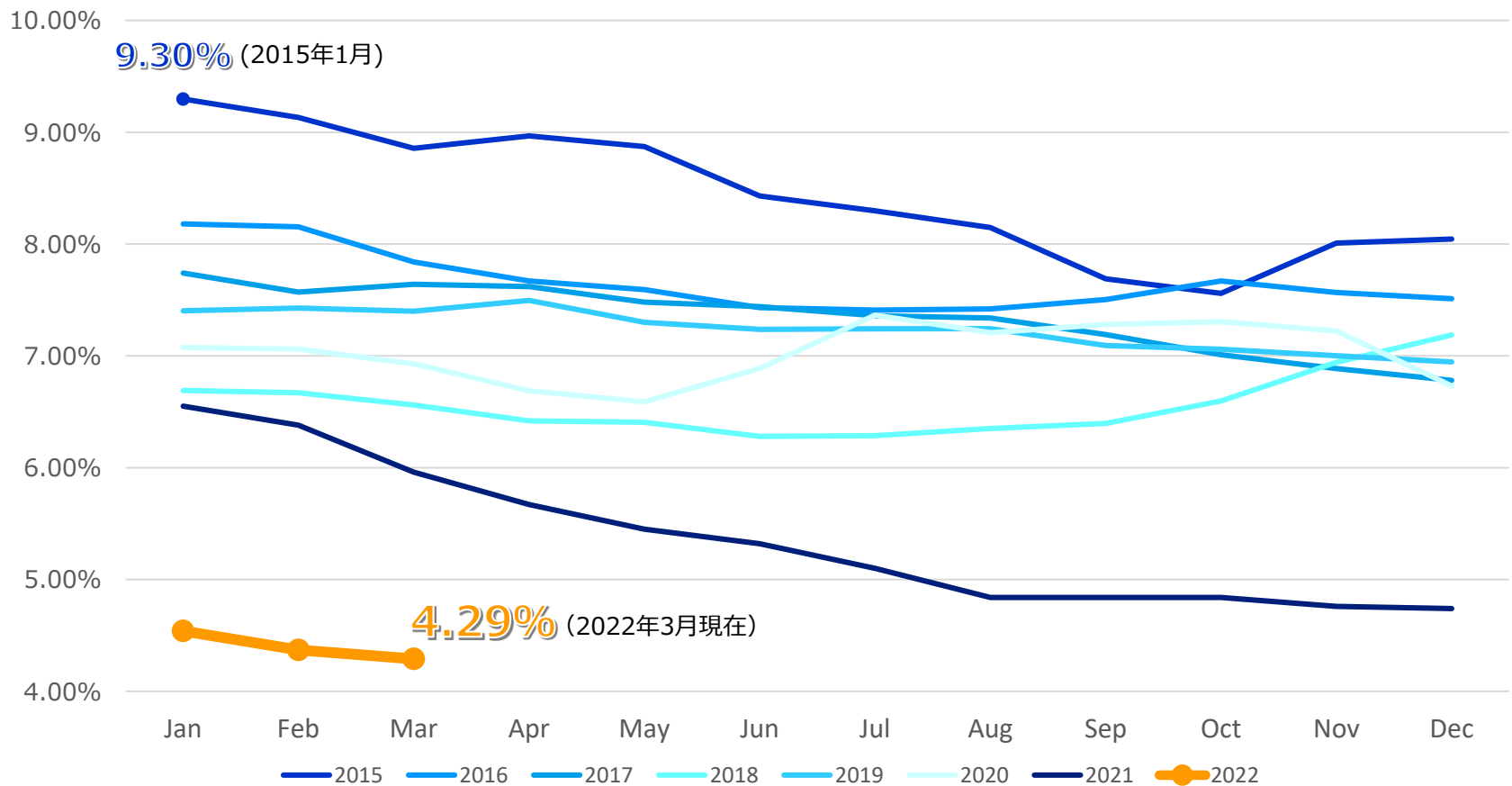
➤ 大口の高金利預金から小口の低金利預金への誘導策が奏功し、COFは過去最低の4.29%まで低下



(※) 数値は現地通貨に2022年3月末レートを乗じて表示

BJI 買収直後と現在のCost of Fundsの比較

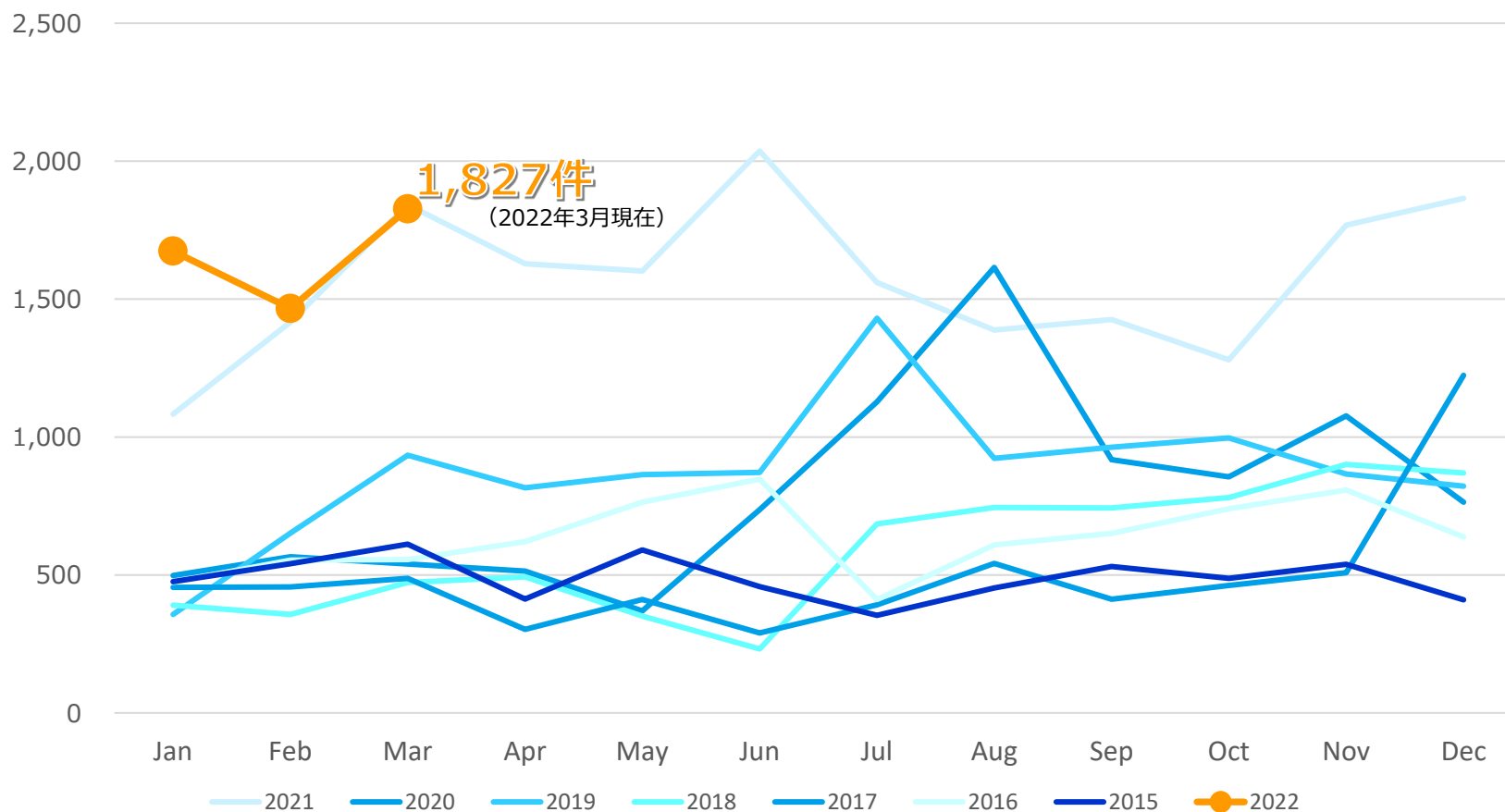
➤ COFはインドネシア進出直後の9.30%から足元では4.29%まで低下



BJI 新規預金口座獲得件数の推移

➤ 2022年1月～3月も新規預金口座獲得件数が好調に推移

単位：件



【トピックス】BJIによる業務提携

- 飯田グループ3社との業務提携に引き続き、福岡に本社を置くダックスジャパンのインドネシア法人と「SAKURA VILLAGE」の住宅販売に係る業務提携契約を2022年3月30日に締結
- BJIは、世帯収入合算審査を実施するとともに、借入期間最長30年（固定金利期間終了後の変動金利を軽減）と月々の返済負担を少なくすることを実現した住宅ローン商品を提供
- 魅力あるローン商品の開発により、多くの日系ディベロッパーから話をいただいている



※調印式の様子



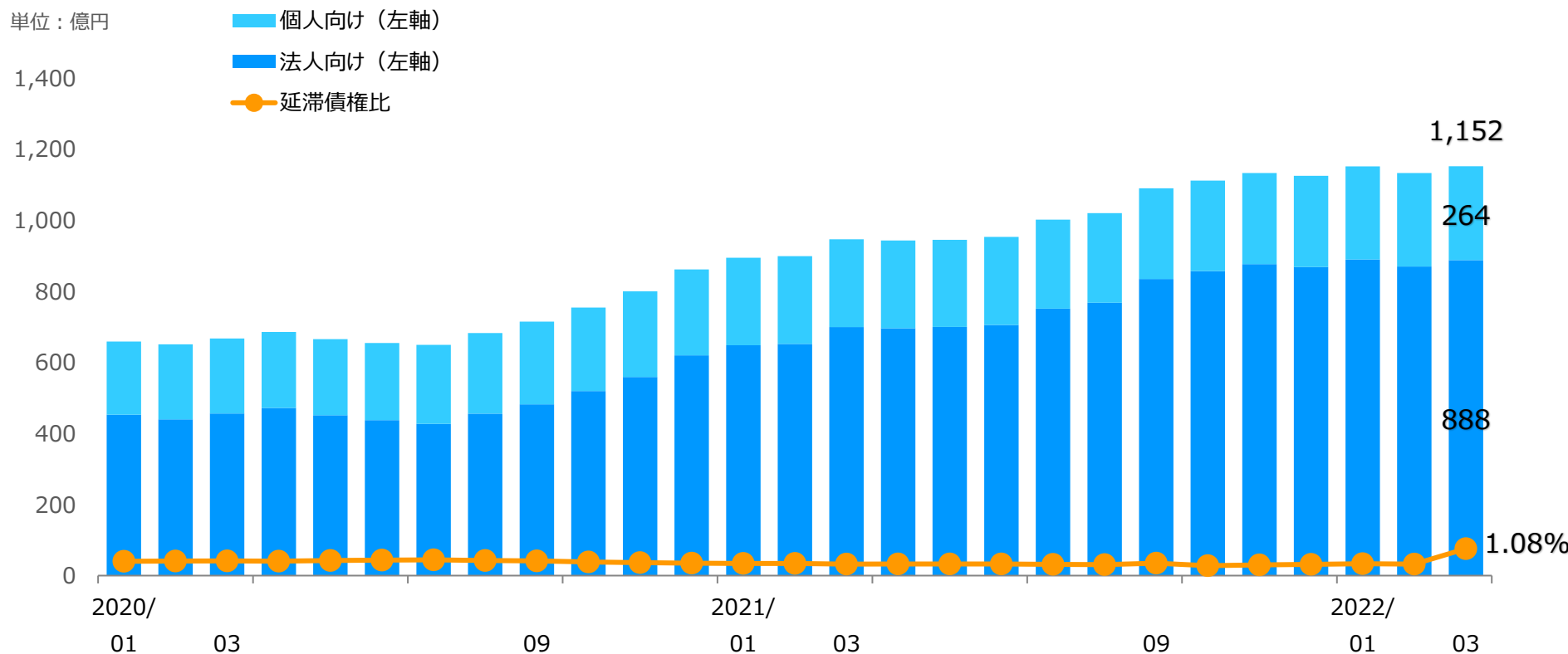
※SAKURA VILLAGE

東南アジア金融事業（カンボジア）

2. 2022年12月期 第1四半期 セグメント別業績と取り組み

JTRB 貸出残高と延滞債権比率の推移

- 法人向けの貸出が好調で貸出残高は拡大傾向が持続
- 延滞債権比率は引き続き低水準

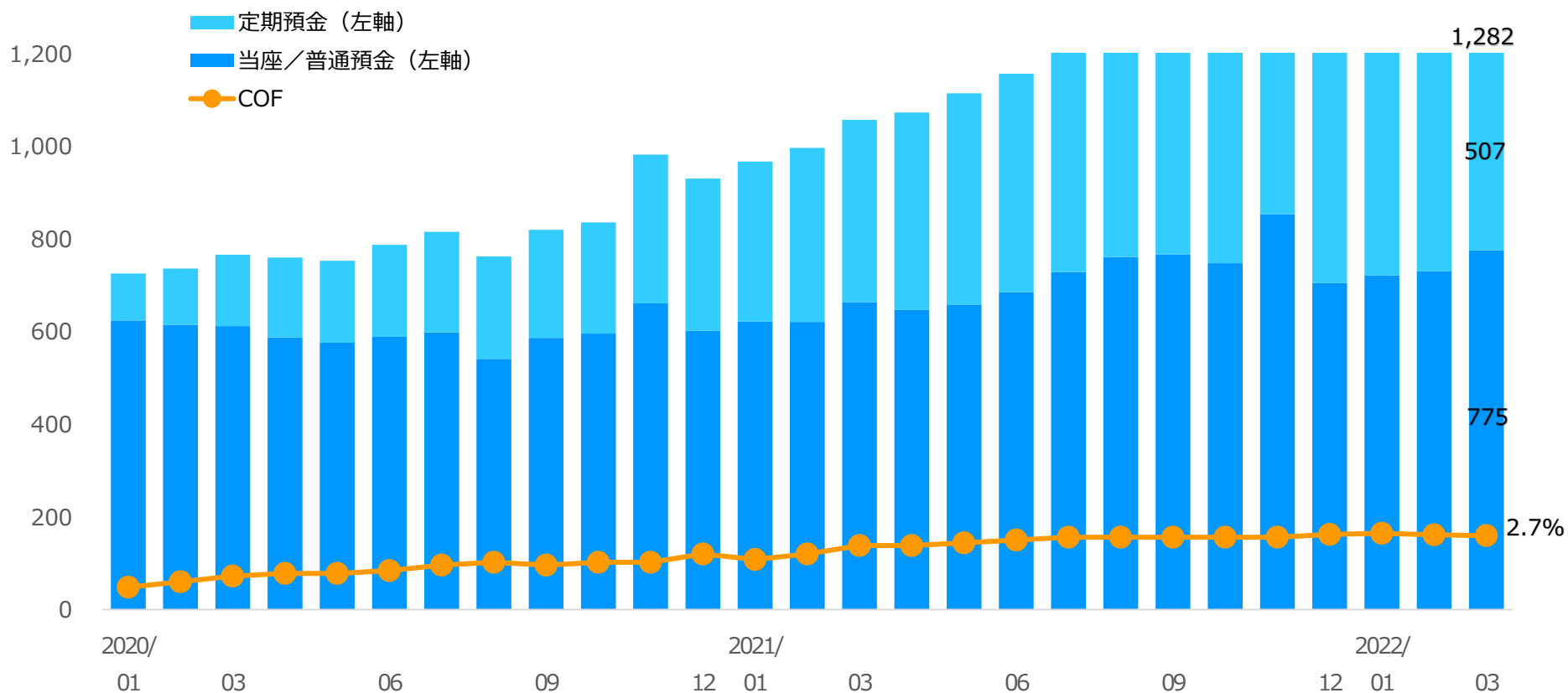


(※) 数値は現地通貨 (USDドル) に2022年3月末レートを乗じて表示

JTRB 預金残高とCost of Fundsの推移

➤COFは依然として低位安定推移

単位：億円



(※) 数値は現地通貨 (USドル) に2022年3月末レートを乗じて表示



J Trust Royal Bank

- 業容(預金、貸出金)拡大方針の維持による安定収益の確保
- Cost of fundsを意識した金利の設定と管理、低金利預金の獲得強化
→「The One」、「Goal Saving」や「Premier Savings Plus」など普通預金商品を開発し、低利の預金を獲得
- 新規顧客層の開拓強化
- 大企業との取引拡大
- 富裕層向け商品や各種普通預金商品のラインアップの充実
- モバイルアプリ、ネットバンキングのサービス拡充
- システム資産の購入と人員の受け入れを行ったことから、新たな開発、機能追加、カスタマイズ等にスピード感と自由度を持って対応

日本金融事業

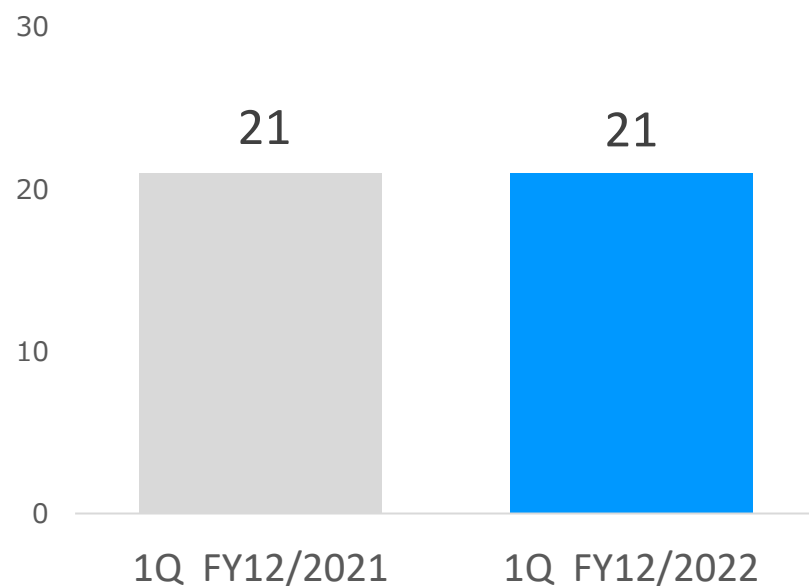
2. 2022年12月期 第1四半期 セグメント別業績と取り組み

日本金融事業の営業収益と営業利益

- 保証事業は安定した利益基盤であり、サービス事業が好調という構図が継続
- 営業利益率は50%超で高水準が継続

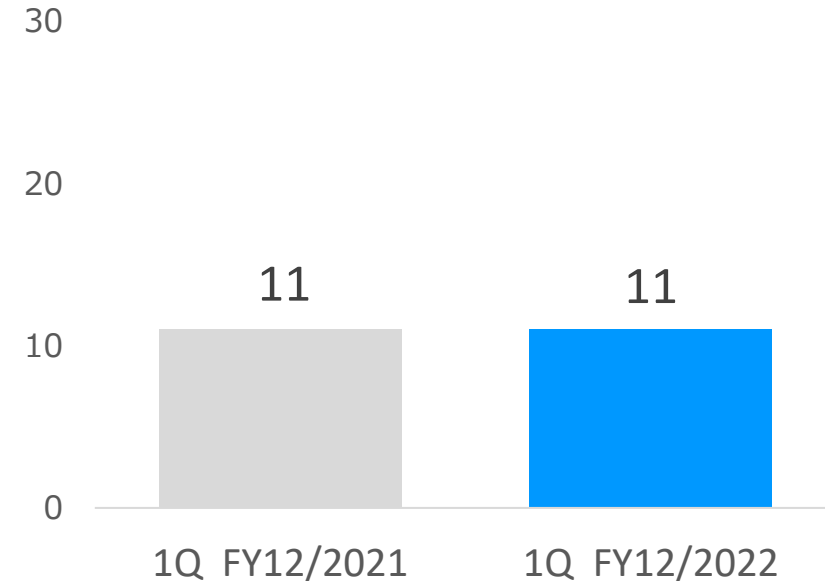
営業収益

単位：億円



営業利益

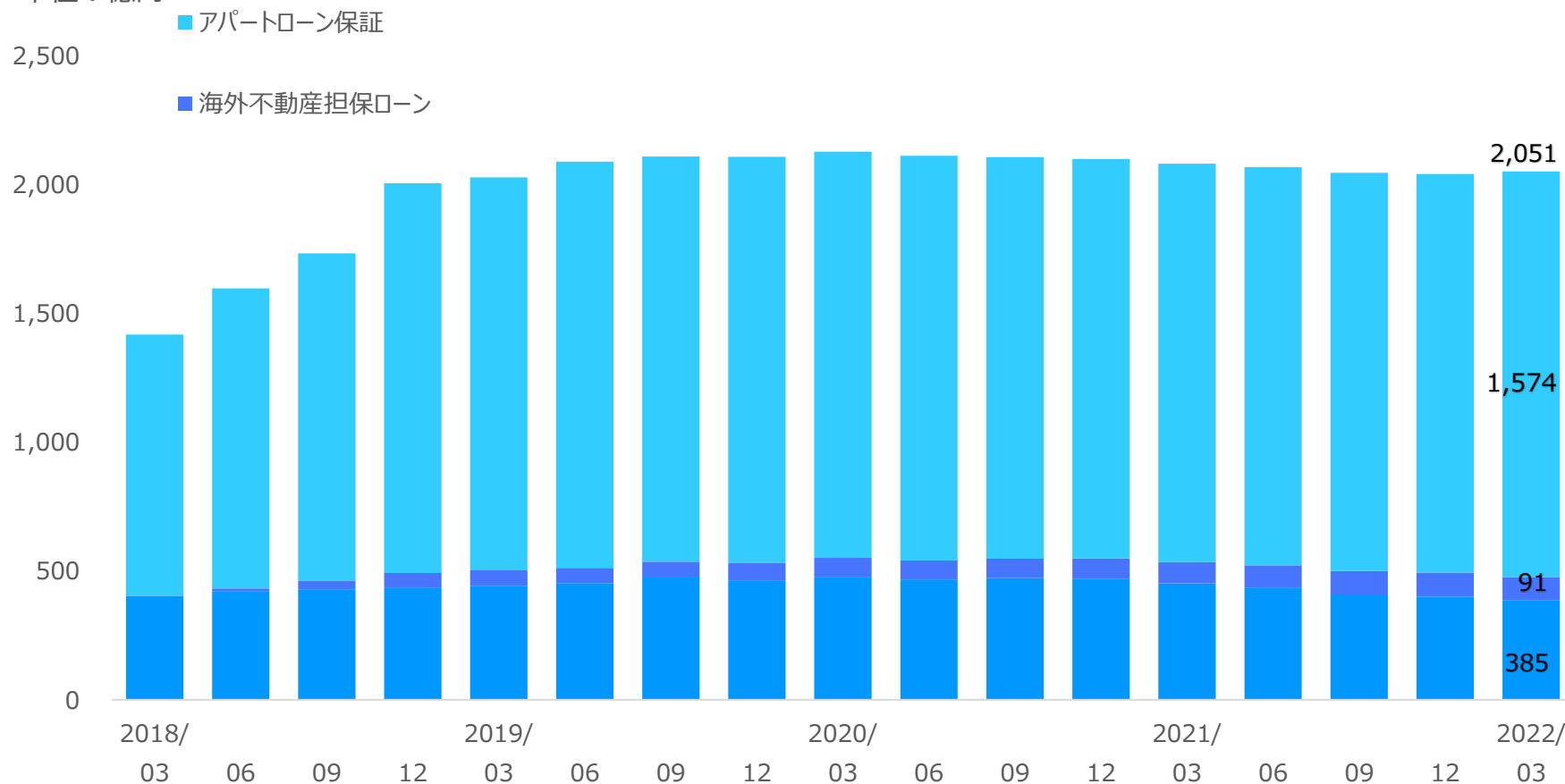
単位：億円



日本金融事業の保証残高の推移

- 昨年来の取り組みが奏功し、足元では反転
- 今後は増加ペース加速を見込む

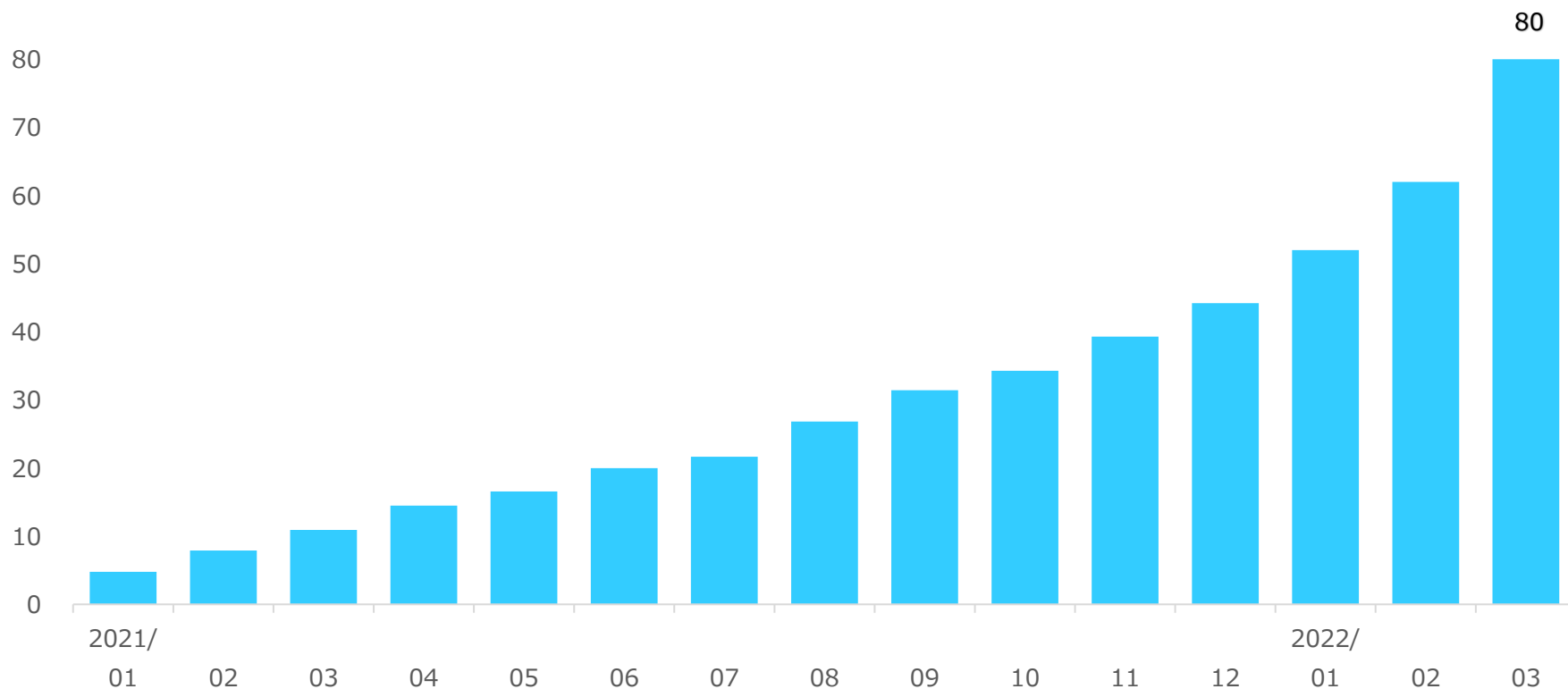
単位：億円



中古アパートローン保証残高の推移

- 2020年11月に開始した中古アパートローンの保証残高は、2022年3月末時点で80億円と計画の65億円を上回るペースで増加

単位：億円



ロボットハウス事業の進捗状況と事業活動のご紹介

年間100億円ペースの保証残高積み上げ体制を構築中

- 土地の仕入れから、アパートの建築、投資家の開拓、販売、ローン保証まで自前でワンストップで行うほか、日本保証が主導する他社との共同プロジェクトもあり、2022年末までに年間100億円のアパートローン保証残高を積み上げる体制を構築中
- 2022年4月末において今年から来年に竣工予定の金額（販売価格）は約65億円となっており、年間100億円ペースの体制が整いつつある
- 今期販売済が2棟 約2.5億円、通算保証残高は4件 約7億円

富裕層限定サイト『Owners Site』



※上記QRコードからの閲覧は
期間限定となります。
※コードを読み取れない、または
後で見たい方は「5月23(月)
午後15時までMoney Online
にバナーを掲載いたしますので、
そちらから閲覧が可能です。

近日中に販売開始予定のRCマンション吉祥寺



物件所在地 JR吉祥寺駅 徒歩9分 ※仮パース

不動産クラウドファンディングシステムの進捗状況

システム受注は100社、5億円の売上を目指す

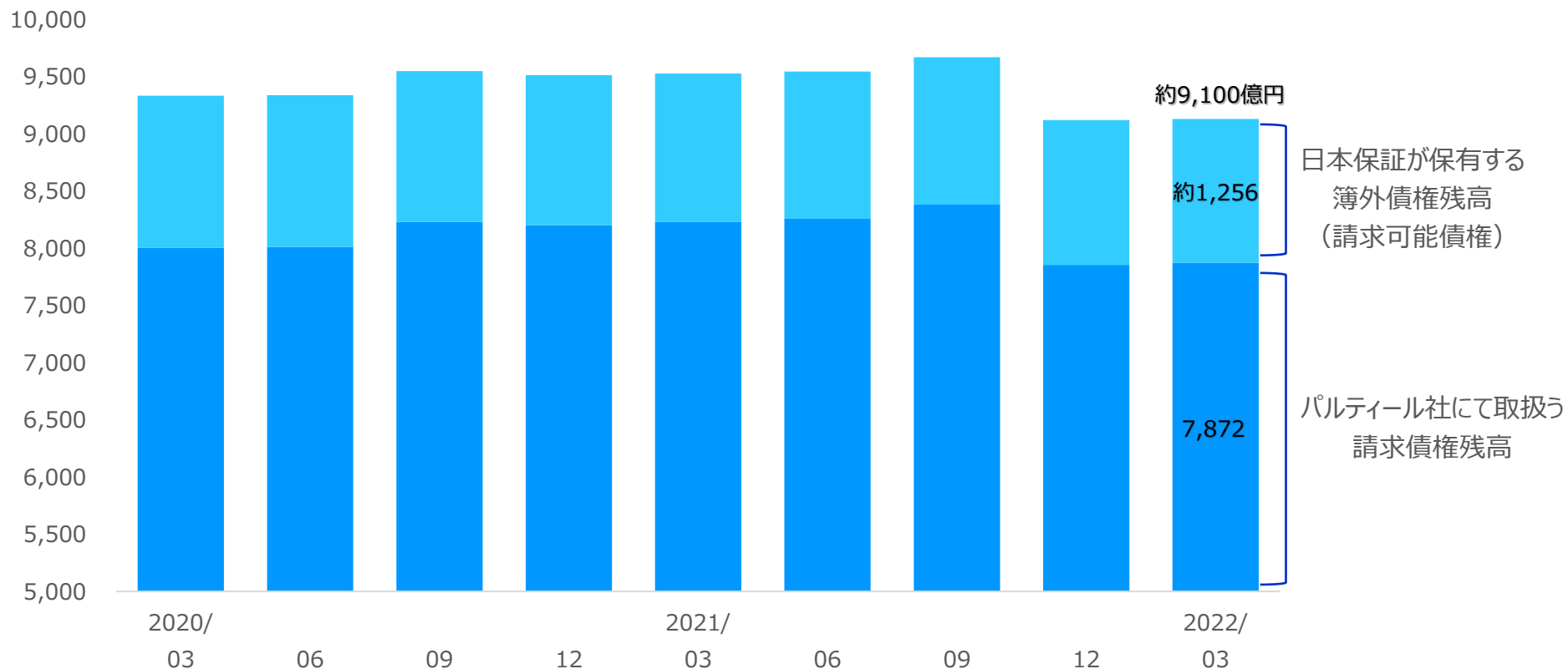
- 貸付型クラウドファンディングで過去に1,500億円以上集めた実績のあるシステムをベースに、昨年、不動産クラウドファンディング専用に変更したシステムを開発
⇒4月末で62社から申し込み、今期契約見込みが23社、契約済が4社、導入済が1社
- 日本保証は投資家のリスクを軽減するため、募集物件に対する不動産買取保証を実施
- 不動産クラウドファンディングシステムの販売対象は、不特免許取得企業（不特事業者240社など）および不特免許取得申請企業（年間想定50社～100社）に加えて不特免許取得検討企業（宅建業者12万件超）
- 毎月、業界に精通した弁護士等によるセミナーを開催（次回 6/16 開催予定）



サービス事業における請求債権残高

- パルティール社にて取扱う債権については、債権の回収が好調であったなかでも買取が順調に進み、足元の請求債権残高は増加

単位：億円



(※) 請求債権残高は買取債権および回収受託債権を含む

韓国及びモンゴル金融事業

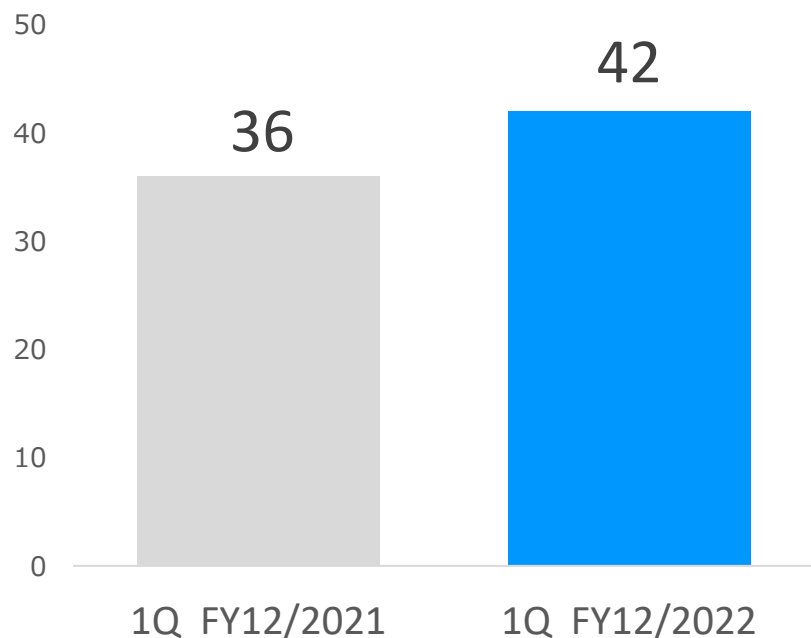
2. 2022年12月期 第1四半期 セグメント別業績と取り組み

韓国及びモンゴル金融事業の営業収益と営業利益

- 営業利益は11億円、前年同期比13%増益
- 主力のJT貯蓄銀行の貸出残高増加による利息収益増加が主要因

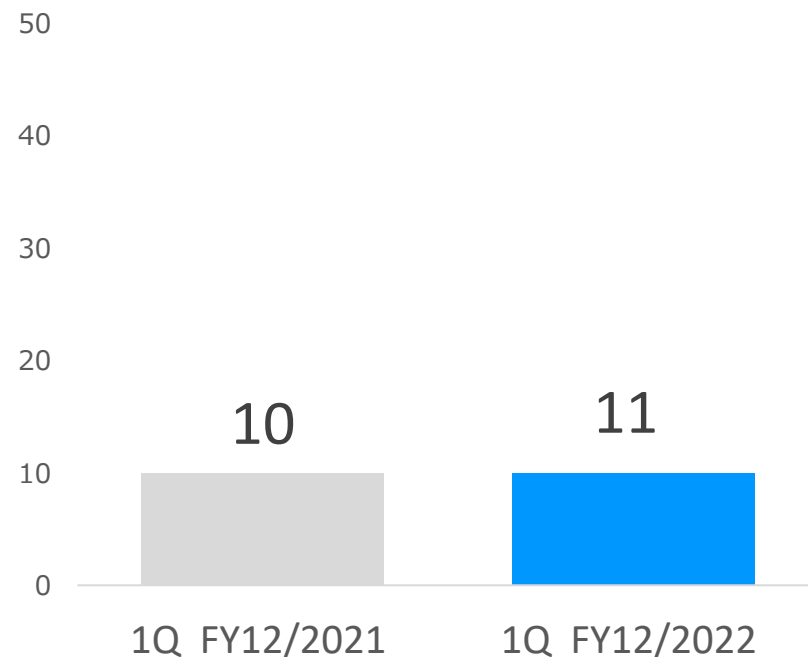
営業収益

単位：億円



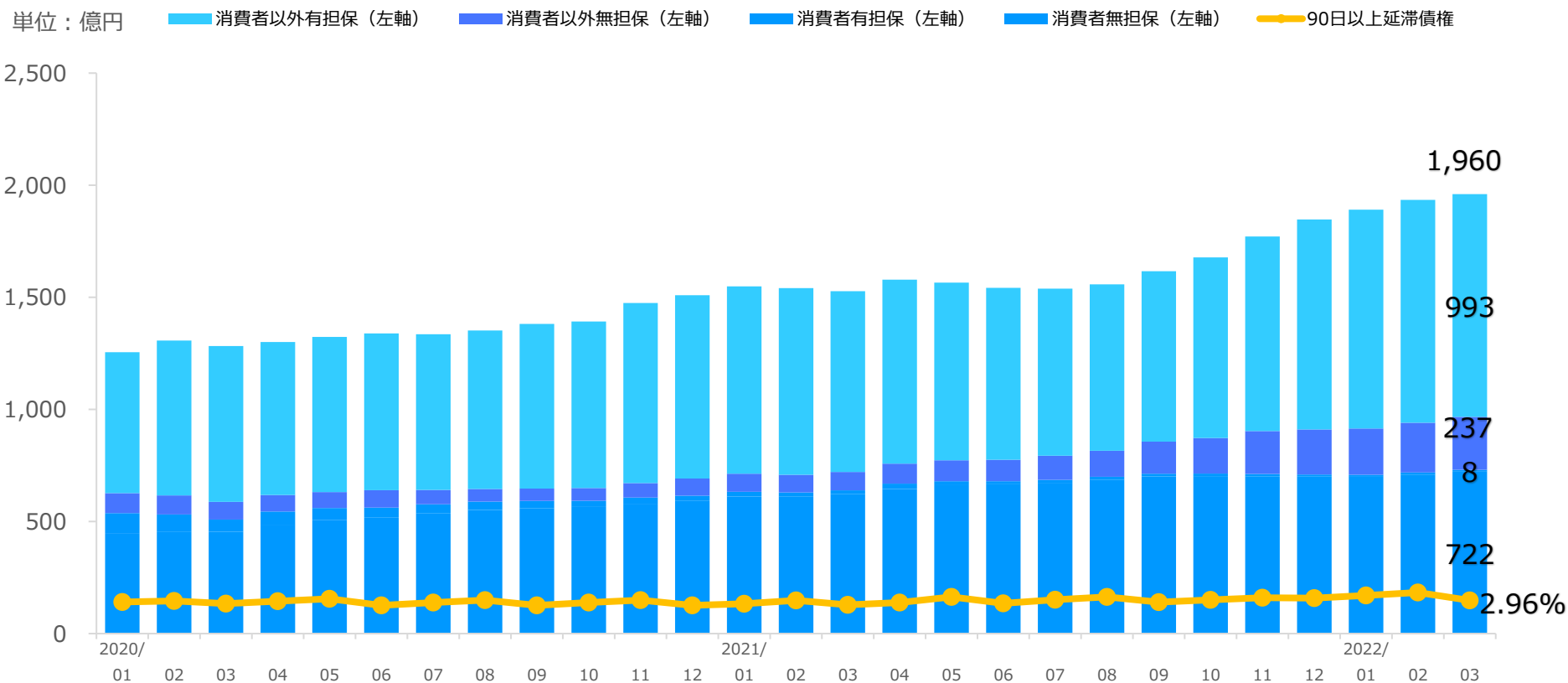
営業利益

単位：億円



JT貯蓄銀行の貸出残高と延滞債権比率の推移

- 貸出残高は順調に増加しており、2,000億円規模にまで拡大
- 90日以上延滞債権比率は3月で2.96%へ低下



(※) 数値は現地通貨に2022年3月末レートを乗じ表示

(※) 残高は現地会計基準

(ご参考) JT親愛貯蓄銀行の営業収益と営業利益

- JT親愛貯蓄銀行は2022年12月期2Qに連結予定
- 2022年12月期1Q（1月～3月）の営業収益は59億円、営業利益は16億円（IFRS）

JT Chinae Savings Bank

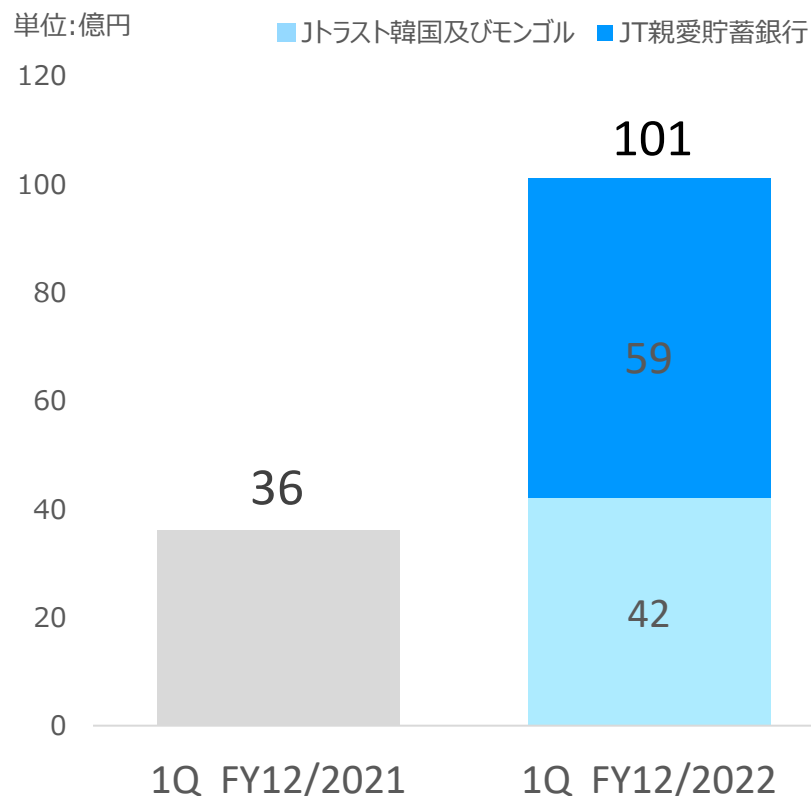
	2022年12月期 通期予想	2022年12月期 1月～3月 実績
営業収益	238億円	59億円
営業利益	49億円	16億円

（※）JT親愛貯蓄銀行の連結は2Qに予定されておりますので、2022年12月期 1月～3月実績は連結されません。

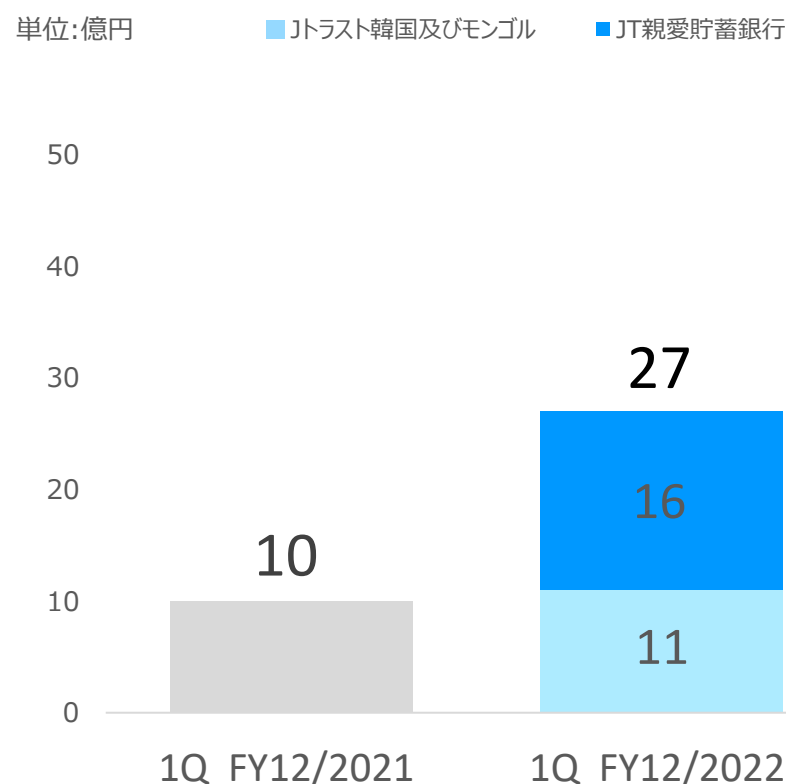
(ご参考) 韓国及びモンゴル金融事業＋JT親愛貯蓄銀行の業績

- 韓国及びモンゴル金融事業の1Q業績に2Qに連結するJT親愛貯蓄銀行の業績を加算すると、営業収益は101億円、営業利益は27億円規模に拡大

営業収益



営業利益



(※) JT親愛貯蓄銀行の連結は2Qに予定されておりますので、2022年12月期 1月～3月実績は連結されません。

投資事業

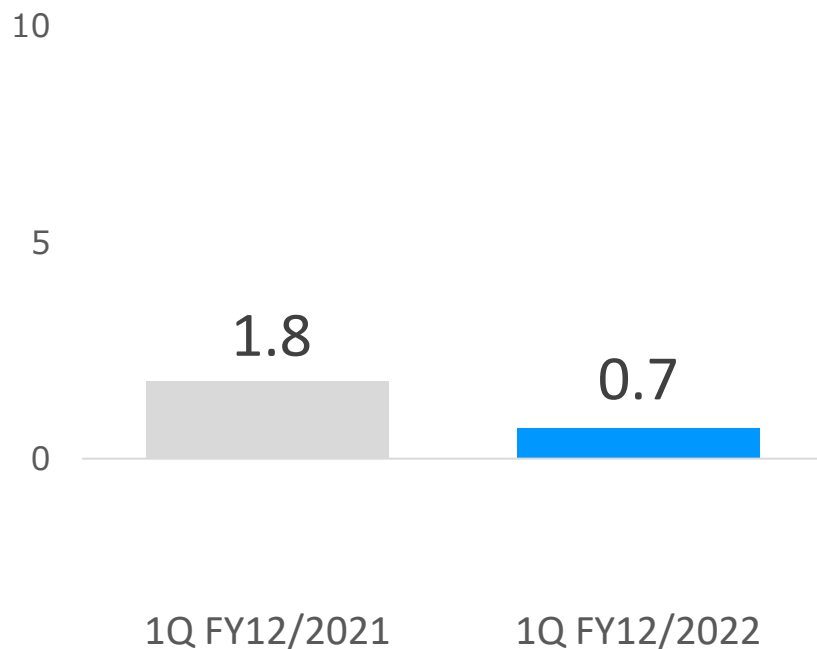
2. 2022年12月期 第1四半期 セグメント別業績と取り組み

投資事業の営業収益と営業損益

- 前年同期にはGL関連の勝訴判決に係る受領額をその他の収益に計上していたため、2022年12月期1Qは減益

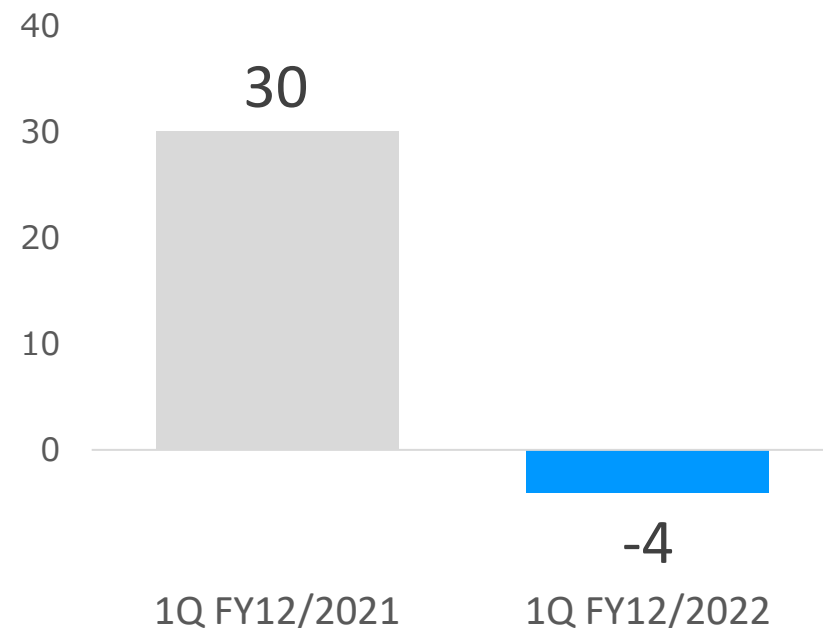
営業収益

単位：億円



営業損益

単位：億円



1. 2022年12月期 第1四半期
連結決算概要
2. 2022年12月期 第1四半期
セグメント別業績と取り組み
3. 2022年12月期 第1四半期
修正後通期予想に対する進捗率と株主還元

2022年12月期修正後通期予想に対する進捗率

- 連結業績予想に対する営業収益の1Q進捗率は17%に留まるものの、期初の計画を上回って進捗
- 営業利益以下の利益項目の1Q進捗率は修正後予想に対しても高水準

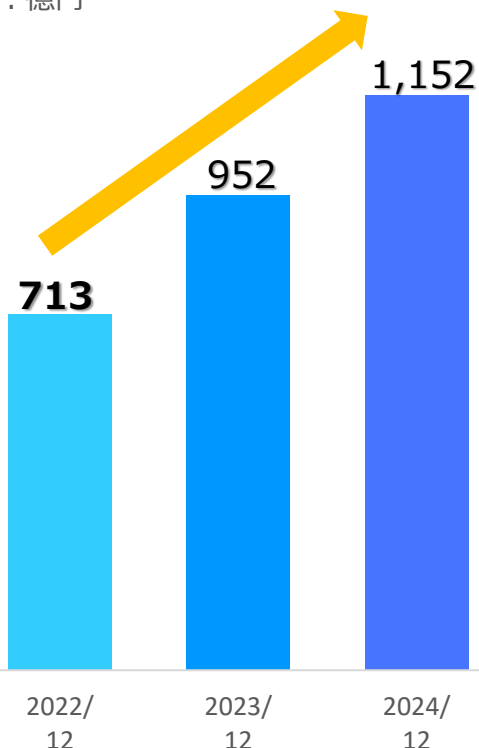
	修正後FY12/2022 通期予想	FY12/2022 1Q 実績	進捗率
営業収益	713億円	123億円	17%
営業利益	55億円	19億円	35%
税引前利益	70億円	39億円	57%
親会社の所有者に 帰属する当期利益	46億円	36億円	79%

営業収益・営業利益・親会社の所有者に帰属する当期利益の予想

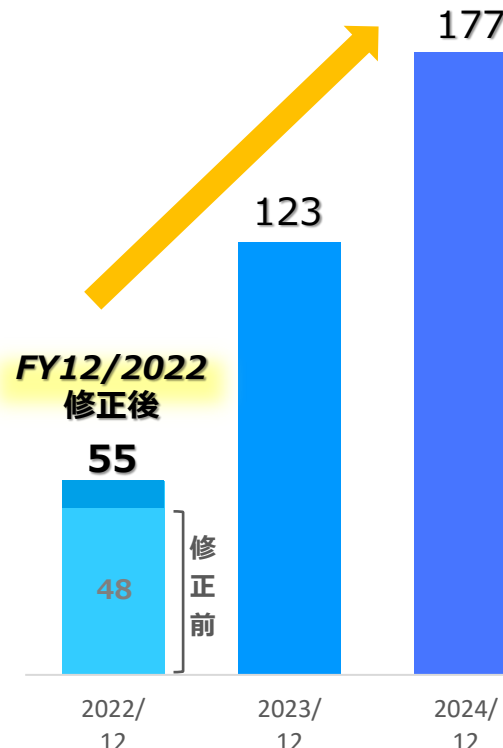
➤ 2022年12月期以降は事業が順調に成長し、営業収益は増収、その後も持続的な成長へ

営業収益の予想

単位：億円

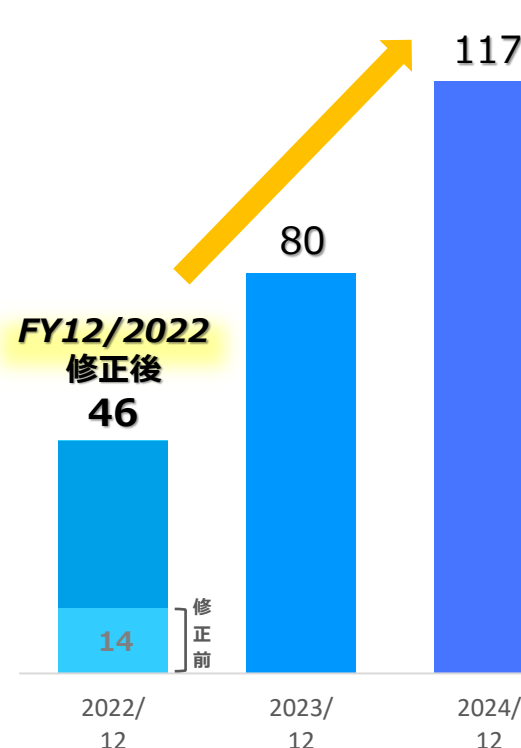


営業利益の予想



当期利益の予想

(親会社の所有者に帰属する)

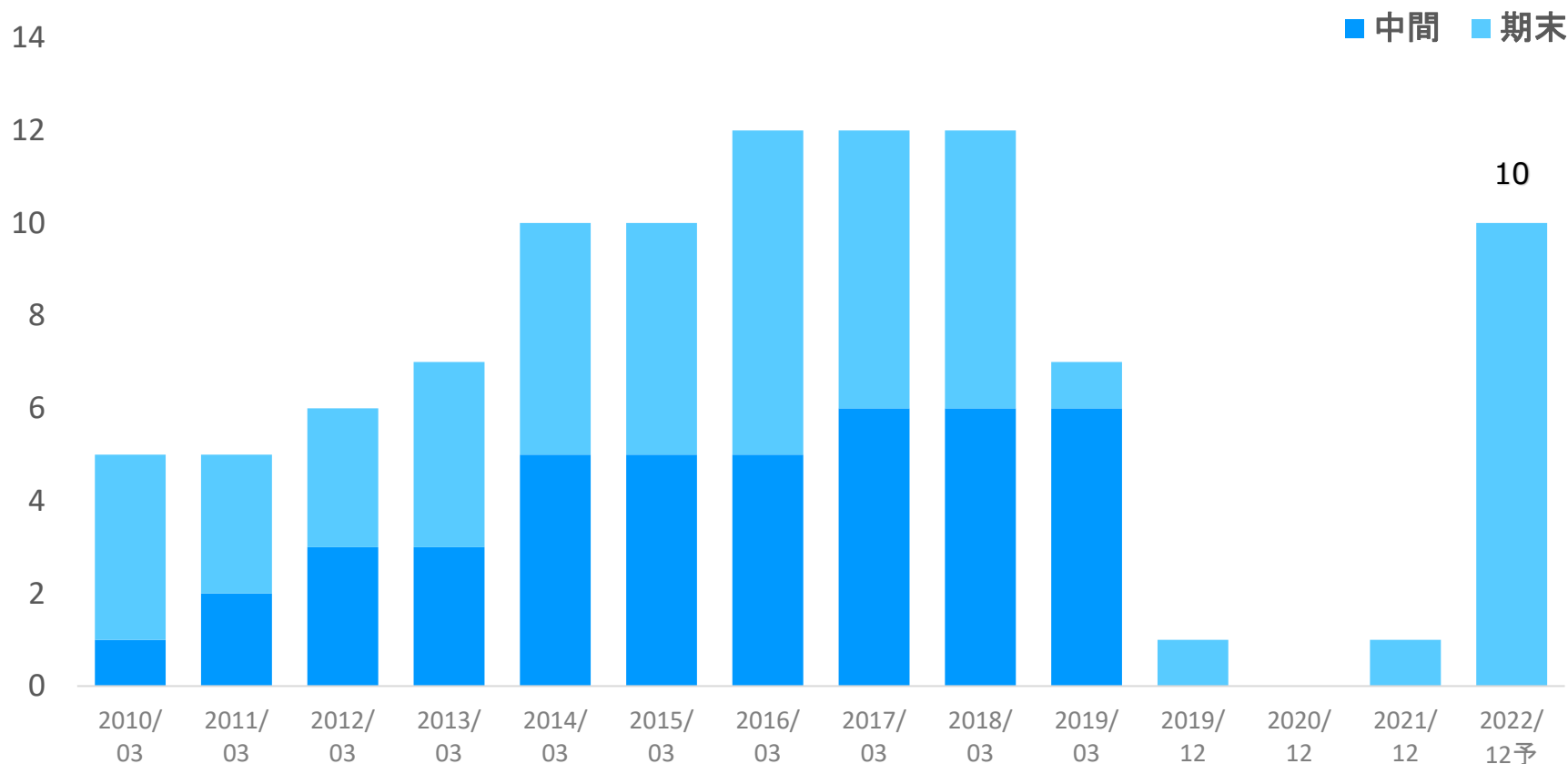


1株当たり配当金の推移と予想

➤ 2022年以降の黒字拡大に合わせ2022年12月末の配当予想を10円に

1株当たり配当金の推移と予想

単位：円



(※) 2012年6月の株式分割を考慮した遡及調整後。2016年3月は記念配当2円を含む。

